古鼡水辺公園愛護会

調査団体名　：　古鼡水辺公園愛護会
設立年　：　1993（H5）　年
団体URL　：　なし
活動拠点　：　古鼡水辺公園
取材日　：　2017年12月4日（月）10:00～11:30
団体代表者名　：　村山志郎
対応してくれた人の名前　：　村山志郎
調査員　：　山本孝之・吉橋久美子
レポート作成者　：　山本孝之・吉橋久美子

活動内容

現在市内に19ある「水辺愛護会」の先駆けとして1993（平成5）年に設立され、長きにわたり、途切れることなく活動を続けている。

活動地である豊田市扶桑町の川辺は、かつて、洗い物や竹や草の採取、川遊びなど、地域の人々の暮らしになくてはならない場所であった。しかし高度成長時代以降、人があまり近づかなくなったことやダムの建造等による川の姿の変化などにより竹が水際まで繁茂していた。

そのようななか、近自然工法の水制が整備されたことをきっかけにこの地を公園として整備・維持しようという気運が高まり、住民による愛護活動が始まった。会は最初の水辺愛護会であるだけではなく、次に設立された「波岩水辺公園愛護会」の立ち上げにも関わるなど、市民が矢作川の川辺の眺めを良くし、人が川に近づける空間を取り戻し、維持していくというムーブメントを起こしたといえるだろう。

・初期：ひたすら竹伐開・焼却と除根で広場づくり
・昨年まで：公園利用のための月１回草刈り（4月～12月）、ゴミ処理
・2017年度から：地域住民の憩いの場として現状維持するため2カ月に1回草刈り（4月～12月、年5回）、ゴミ処理

キャッチフレーズ

生活環境を快適に、故郷の誇りとなる風景づくり

会のモットー（何を大切にしているか）

広場の現状維持

設立から現在に至るまで変化したこと

古鼡水辺公園は開かれた公園として各地から来訪者があり、筏下り大会の出発地点や、「矢作川「川会議」」の会場として活用されたりもしてきた。騒音やゴミの問題等も起きたが、その都度対応をしてきた。

しかし住民の要望があり、2017年度からは外部の人に積極的に開かれた公園ではなく、地元住民のための広場へと方針を転換した（駐車場、入り口トイレの廃止）。作業日数も削減した（1回／月）→(1回／2か月)。

連携している団体・専門家・自治体など

豊田市

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動（例：小仕事づくり、地域資源の活用など）

地元住民のための活動であり、流域圏というような広域的な考えはない。

現在直面している課題

草刈りを真面目にやってきた結果、樹と砂しかない広場になってしまい、矢作川研究所から要望されていた生物の多様性ある空間づくりになっていない。しかし、長い目で見てその時代時代の住民が考える空間にしていけばよい。個人的には自然生態優先の河畔林を模索したい。

今後やってみたいこと

1. 現状環境を維持する
2. 会員や地元住民の気持ちの変化に対応して維持方針を見直す。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

除草機械購入費用～夏場の肩掛け式草刈り機の作業はしんどい。ある程度の機会化費を検討してほしい。

チームオリジナルの質問

＜質問内容＞
山も農地も維持管理に対して補助金が出る時代になっている。河川区域には出ないがどう思いますか？
＜答え＞
川に対しても豊田市内に愛護グループがたくさんできてきたので市は支援ルールを柔軟に見直してほしい。

その他、伝えたいこと

愛護会活動は河川法を意識して行っている。活動内容は市に届けて河川管理者(県)から包括的に市が許可を受けている。したがって、会としては生物多様性は意識していないが、河川としての自然生態回復を意識した、地元のためのふるさと活動を目指したい。
【その他】
県が施工した巨石水制工は、完成後に先端部の沈下が始まり、東海豪雨でも被災した。河床低下を何とか止めてほしい。古鼡側の岸が浸食されている。将来的にはダムからの土砂供給が必要と思うが今から取り掛かっても20年はかかるだろう。当面、中洲の土砂を掘削して古鼡側へ盛り土することで流れの圧力を西側にも分散してほしい。

写真

取材風景

2017年8月撮影

2017年12月撮影

活動風景（2015年9月5日）